

スーパーグローバル 「英語でプレゼンテーション」の講義を行いました。

2016年12月12日の7時間目に5年生全員を対象に、広島大学大学院教育学研究科のグローバル教育推進室より、Aaron C. Sponseller (アーロン C. スポンセラー) 先生を講師にお招きして「英語でプレゼンテーション」という題目で、英語で講義をしていただきました。

講義は、「英語でプレゼンテーションを行う際のポイント」に限ったことではなく、「自分の考えを明確に相手に伝えるプレゼンテーションにするためのポイント」という視点から、日本語でプレゼンテーションする場合でも活用できることを教えてくださいました。講義では、原稿を丸読みしてしまったり、演壇で直立してジェスチャーのなかつたりする日本人にありがちなスピーチのようなプレゼンテーションを悪い例として挙げ、「発表者 (Presenter)」「聴衆 (Audience)」「スクリーン (Screen)」の関係を意識することや、「発表者は聴衆に伝えたい内容を、ストーリーとして組み上げているか」や、「文字を極力使わず、ストーリー性のある図や写真をスクリーンに投影しているか」など



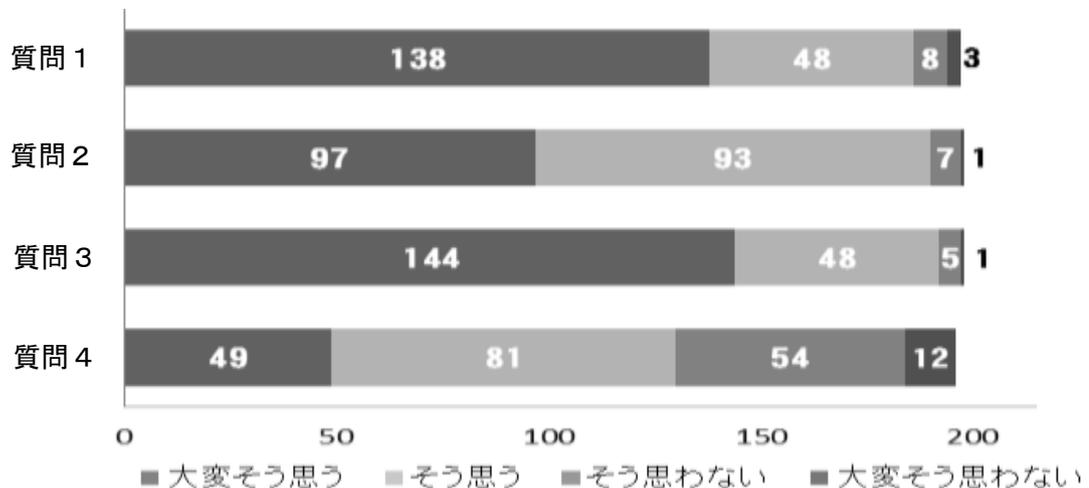
“ストーリー”をキーワードに、プレゼンをするにあたっての大切なことを教えてくださいました。そして何より、言葉やスクリーンだけでなく身振り手振り、視線、体の向きといったボディランゲージの大切さも生徒に教えてくださいました。講義で見せるアーロン先生の姿はまさにそれらを意識されたもので、伝えたいことが端的に表されたスクリーンや、壇上を目一杯使って身振り手振りも活用されたものでした。時折笑いも交えた講義で、生徒はプレゼンテーションの面白さや醍醐味も実感しながらの1時間の講義となりました。

以下に講演を受けた生徒のアンケート結果をまとめました。

質問項目

1. 講義に関心をもって参加することができた。
2. 英語の講義内容は理解することができた。
3. 講義はプレゼンテーションの作成や準備の参考になった。
4. プレゼンテーションで自分の考えを発表してみたいという気持ちが強くなった。

集計結果
*総数198



自由記述 今回の講演から学んだこと、考えたことを具体的に記述してください。

○プレゼンのコツがとてもよく分かって楽しかった。プレゼンは才能とかではなく、練習次第で上達できると分かったので、私ももっと発表してみたいと思った。ボディランゲージについて、体の向きや手の位置など、具体的に教えていただいたので参考にしたい。先生は緊張していないみたいで、すごかった。私は質問するだけでも緊張してしまった。いっぱい経験を積んでいきたい。



○最近になってプレゼンテーションをする機会が増えてきて、だいぶ慣れてはきましたが、アロン先生ほど堂々とできたことはありません。聴衆を一番気にすることができたかと言われると、全くできていなかったなと思います。緊張するとどうしても自分が何とか乗り越えらいいと思ってしまいがちなので、しっかりと落ちついて意味のある練習をして発表に臨みたいなと思いました。



○初めて知ることがたくさんありました。パワーポイントは道具であって、聴衆がつくる物語・イメージのお手伝いだということには、なるほどと思いました。あくまで聴衆が主体となっているものがプレゼンテーションだということには私自身がプレゼンをするときに安心できるポイントだなと思いました。また怖がらずに自分の思っていることをいかに簡単に聴衆に伝えることの重要性がわかりました。

○あくまで聴衆に伝えることが最重要であることが分かり、また伝えるのは自分の口からでしかできないということがよくわかった。動作を加える視線の向きを聴衆に向けるそういうものだけでプレゼンテーションの雰囲気が変わりとても聞きやすくなり、とても面白かったです。言動・文法の粗相よりも何を伝えるか、伝えられるかが重要であるとわかり、今後の参考にしたいと思った。

○プレゼンテーションの際に注意すべきことがよくわかりました。初めて知ることも多く、**Choose the right picture** やフォントのことなど、細かいところにも **Audience** が第一だということを実感できました。プレゼンでも人と人の向き合い方が大切で伝わる言葉、態度を示すことが重要だと思いました。

○「聴衆を大切にする」というのが本当に大切なんだとよくわかりました。聴衆の知りたいこと、興味を持ってもらえるようなことを英語独特の抑揚をつけつつ、発表するというのはとても難しいことだと思います。練習を重ねるにつれてたくさんの経験を積んでいけば、いいプレゼンテーションになるとは思いますが、まだ私にはできそうにありません。でも、今回の講義はとても勉強になりました。



○プレゼンテーションは1つの物語である。そのストーリーを伝えるためには自分自身がすべて理解し、自分のプレゼンテーションと聴衆に誇りを持ってすることが大切だと知りました。「(英語のミスやできないことを) あやまらない」「目的を持つ」「スピーチにならないように (スピーチとプレゼンは違う)」というようなものは、なかなか私ができていなかったことであり、これからの課題だと思った。

○聞き手のことを一番に考えてプレゼンテーションをすることが大切だということがわかりました。その中でも話し方や、パワーポイントの使い方、書体などいろいろなことを気を付けないといけないのだということがわかりました。プレゼンテーションはとても大変なんだと思いました。

○プレゼンテーションをつくる上で気を付けなければいけないこと、考慮しなければいけないことを知ることができました。相手に伝えるためには、もし自分だったらどう言ってもらえると分かりやすいか、置きかえてみるのが大切だなと感じました。英語のプレゼンテーションはもちろん、日本語のプレゼンテーションにも応用できることがたくさんあったので意識したいです。

